倭文庫四拾七編

第廿四篇

上

へ13
3749
23

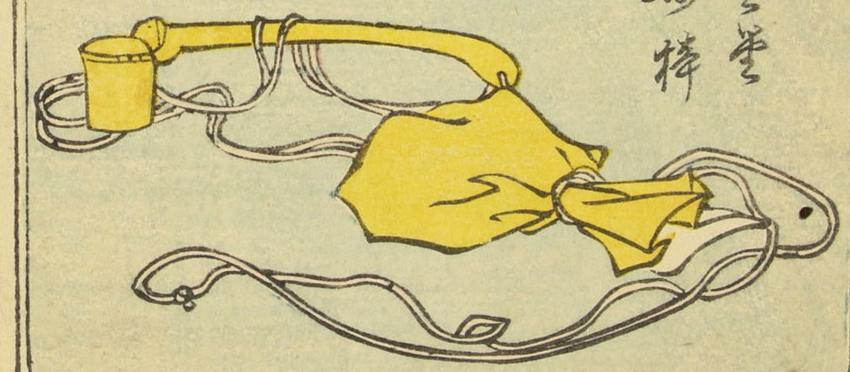
門へ13
號3749
卷23

家滿戸文庫

四拾七編

上之巻

綿屋雲壽



家滿戸文庫

意賀さく

園貞志このく

釋迦八相倭文庫四拾七篇序

夫迦蘭陀長者須達長者の傳い豫め中本起經毘奈耶律。雜譬喻經。雜寶藏經。十誦律。等を引書

家滿戸文庫

原より西域を旨とせね倭文庫の題ゐ隨く倭漢ん吏たこのことだ〜そのの妙方便戯奥ち巻々さこそ

家滿戸文庫

道の四拾七功德も如來に劣らぬ舍利弗ぞ揮術の

家滿戸文庫

長い神通力士を擬り遺ふ古く訳ル智恵ル猛ざ

撥操の岩洞ぞ〜ふち眼がさぐこのバまば此編い是ぎり

後編い續く御覽に入ゆ

万延二撿
辛酉初春

万亭應賀誌

○優闐大王の勅命ふるき毘首天
羯摩天
赤栴檀をもて
世尊の影像を
一刀三禮して刻ゆふ
此霊像三國ふ傳りて
今日本嵯峨の
釈尊是あり

うぢんだう

びしゅ

かつま

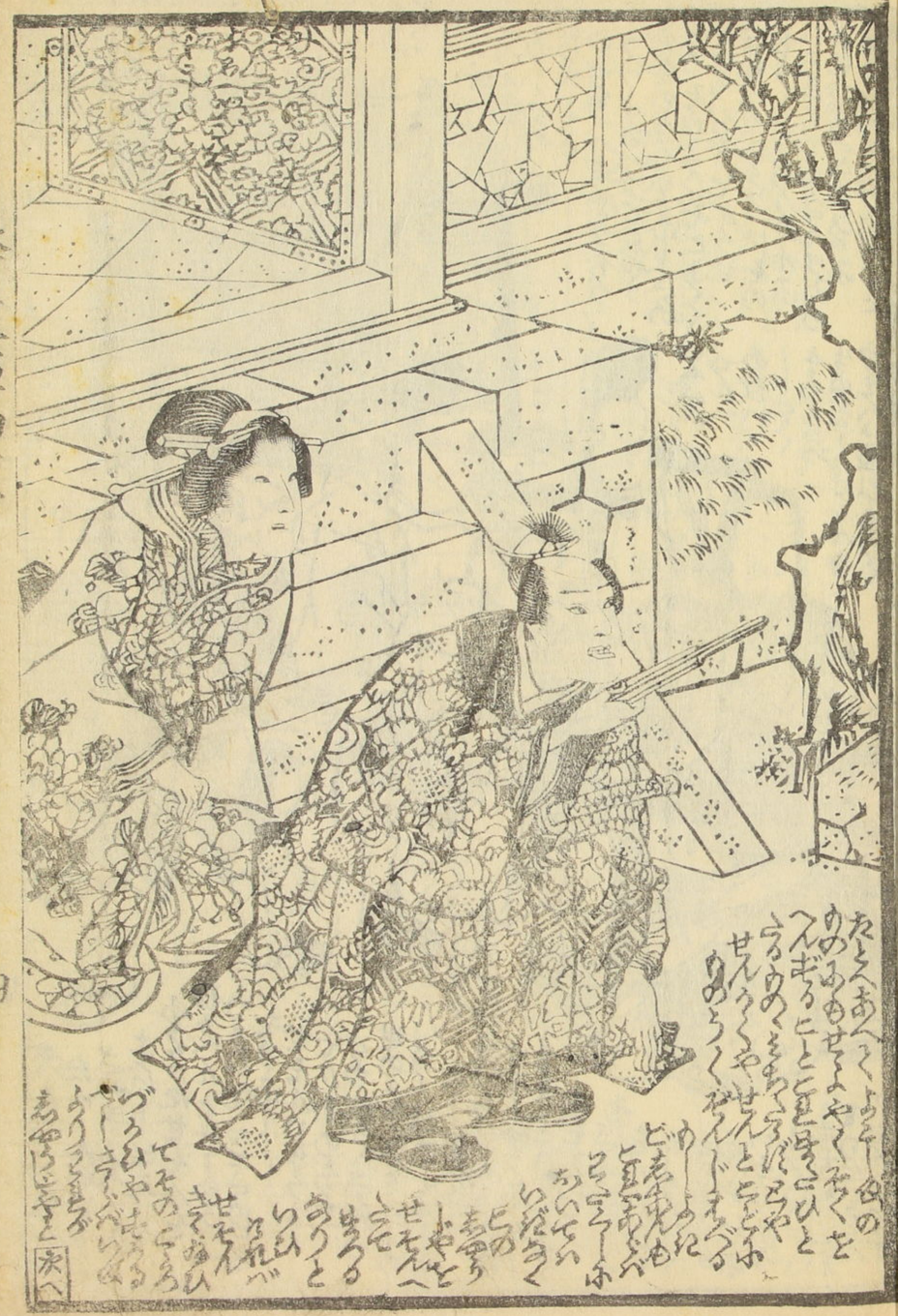
○給孤獨長者須達多
十八億の黄金を地ふ敷て
祇陀太子の園を買求
伽藍を建立て世尊ふ
是を祇園
精舎とゝ
獻ず

伽藍陀
竹林精舎
月日
如
目
舌

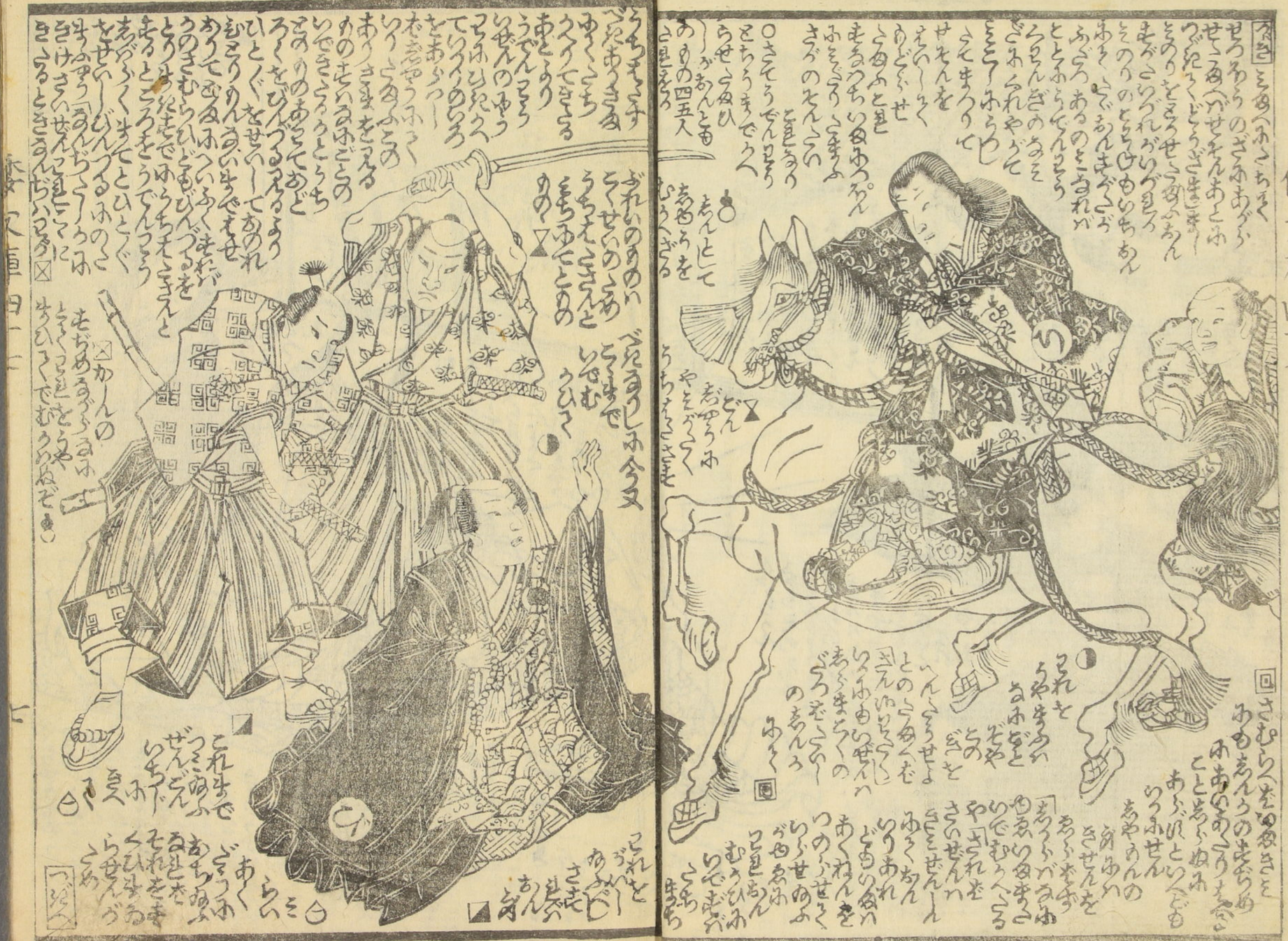
[illegible]

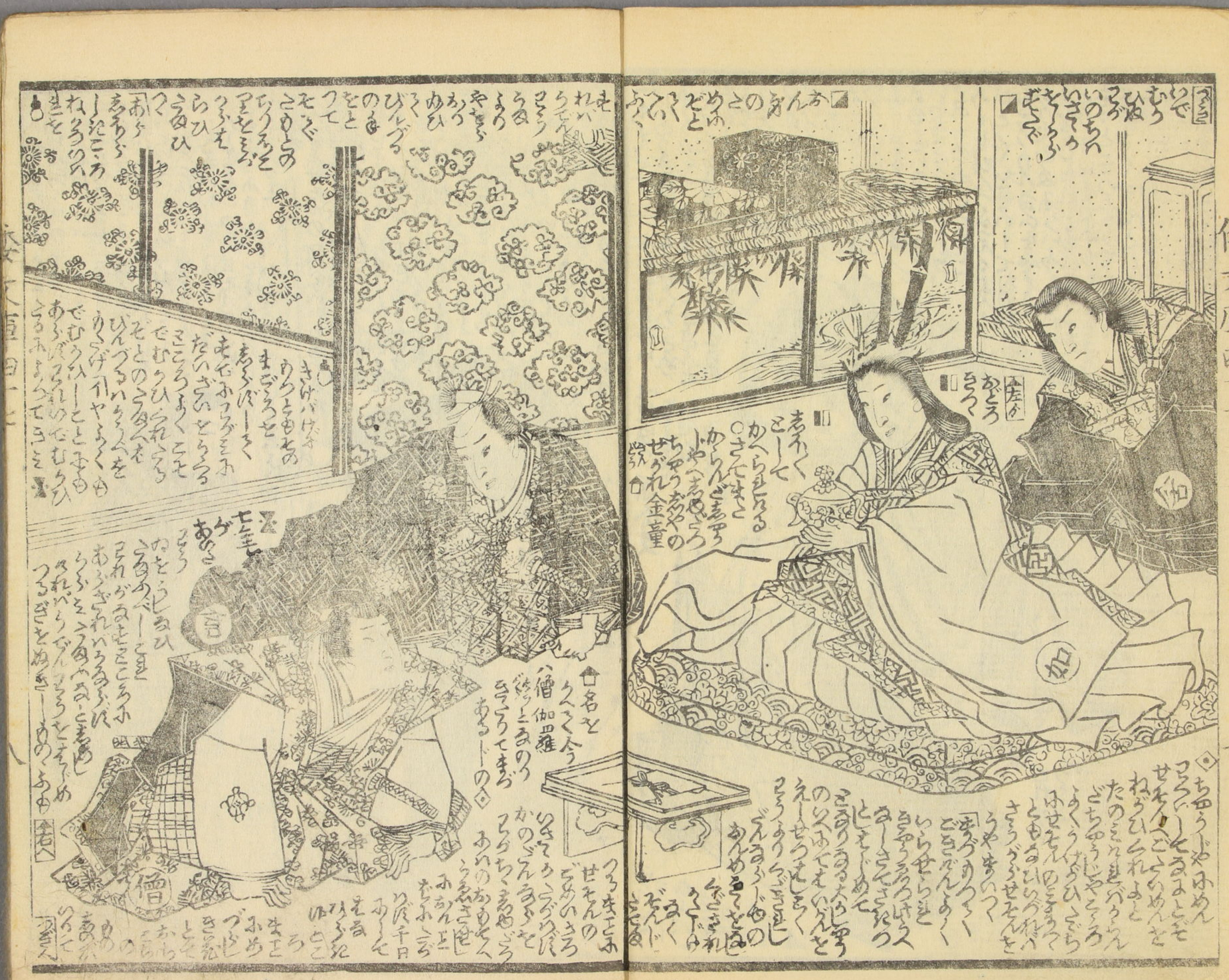
[illegible]

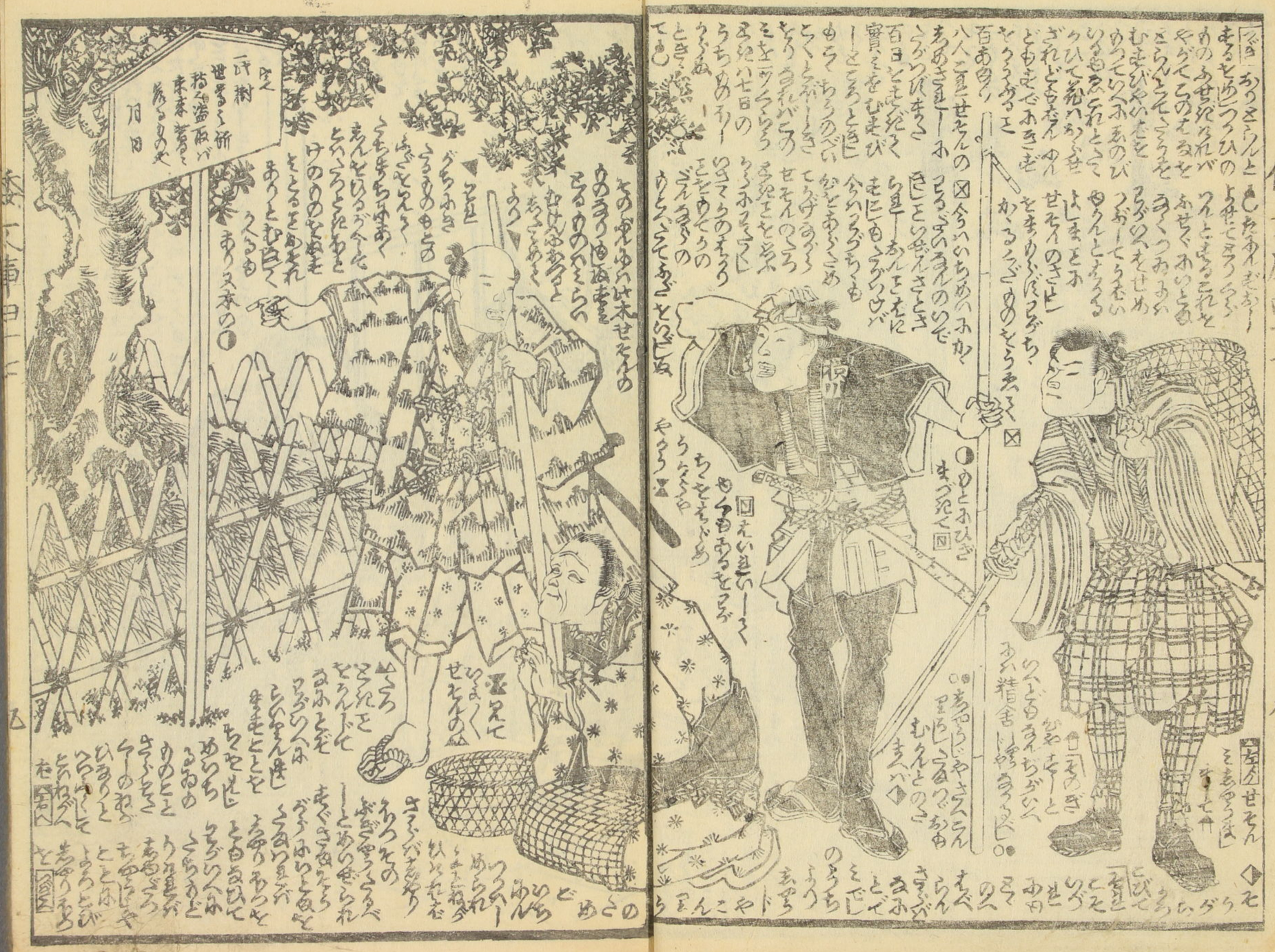
[illegible]

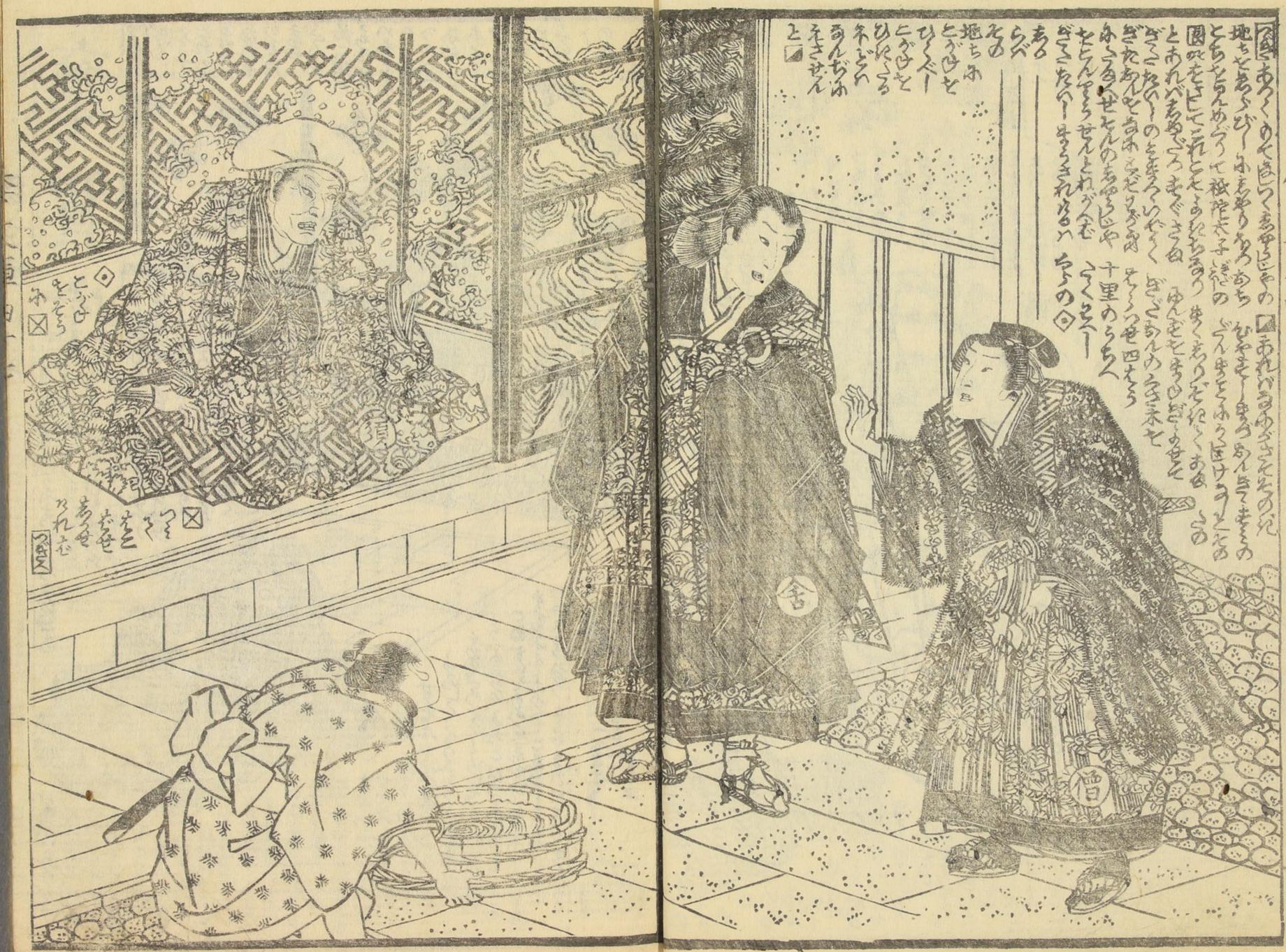


二の巻

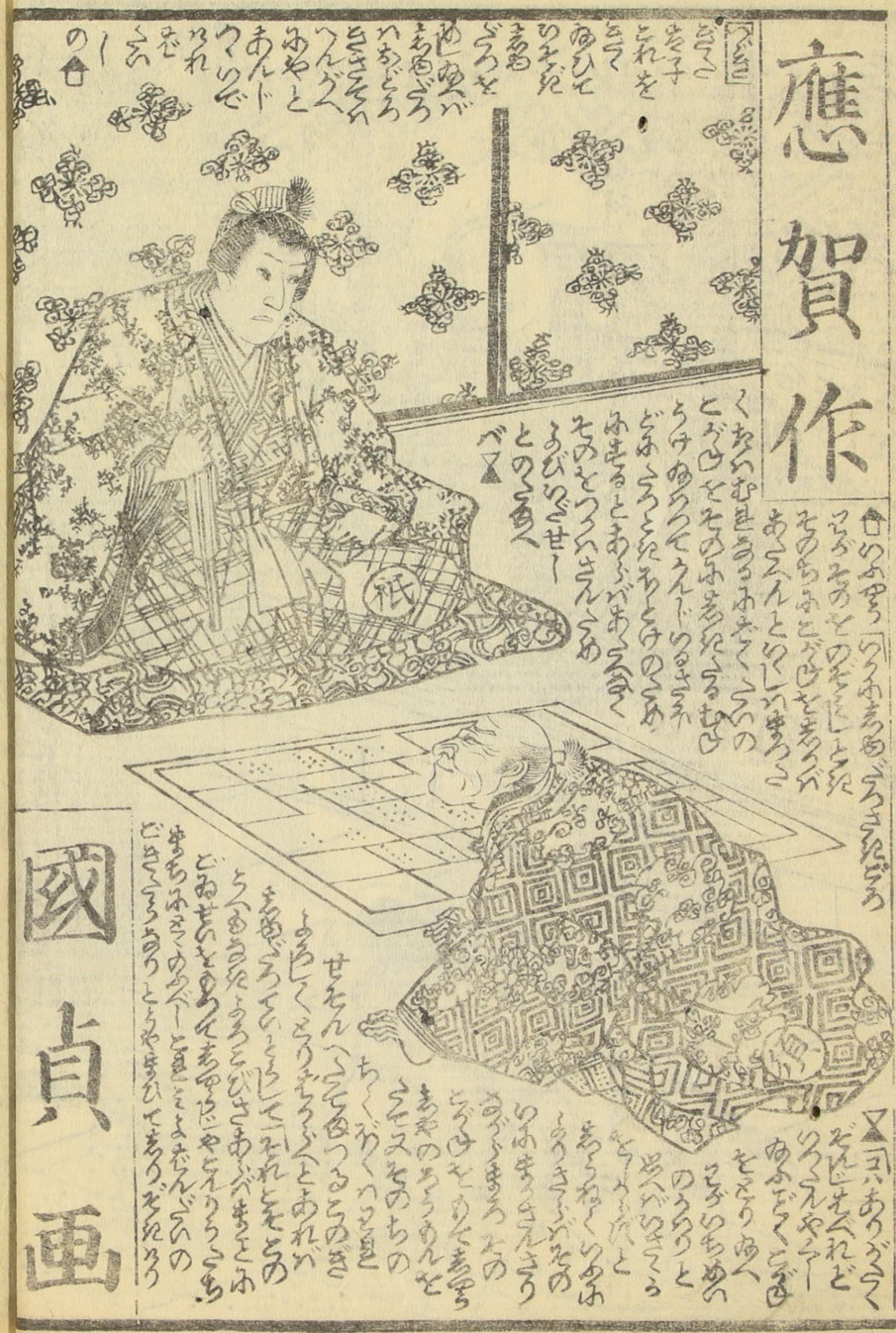



伽
僧


月日


とびをそろ
十里のうちく
ちうの
とびをそろ

應賀作



國貞画

倭文庫 四十六編 四十七編 四十八編 四十九編 万亭應賀作 一陽齋豊國画

重井菱染別小紋 八編揃 為永春水作 同

昔語小栗實説 二編 松亭金水作 三編 同

花山吹百人女郎 初編 柳亭種彦作 二編 同

浅草みやげ 五編揃十返舎一九作 同

常磐津懐中本 初編二編 小なかゆて 三編四編 茅舎あり 極上あり

金重繪艸紙本類 人形町 上州屋重藏版

万亭應賀作
歌川國貞画
祇園精舍建立
外題曲乙國盛
下

傾文庫

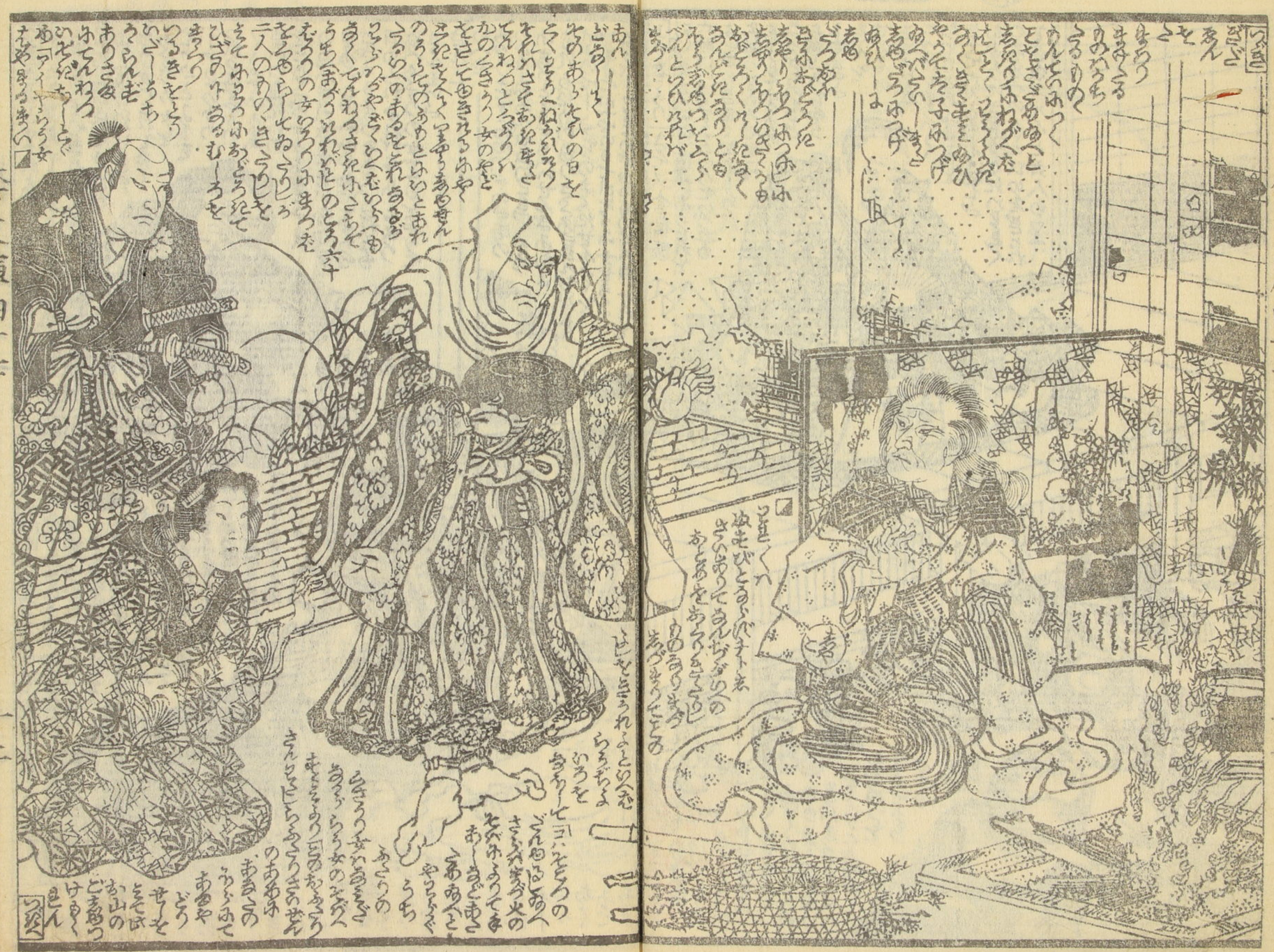
四拾七編

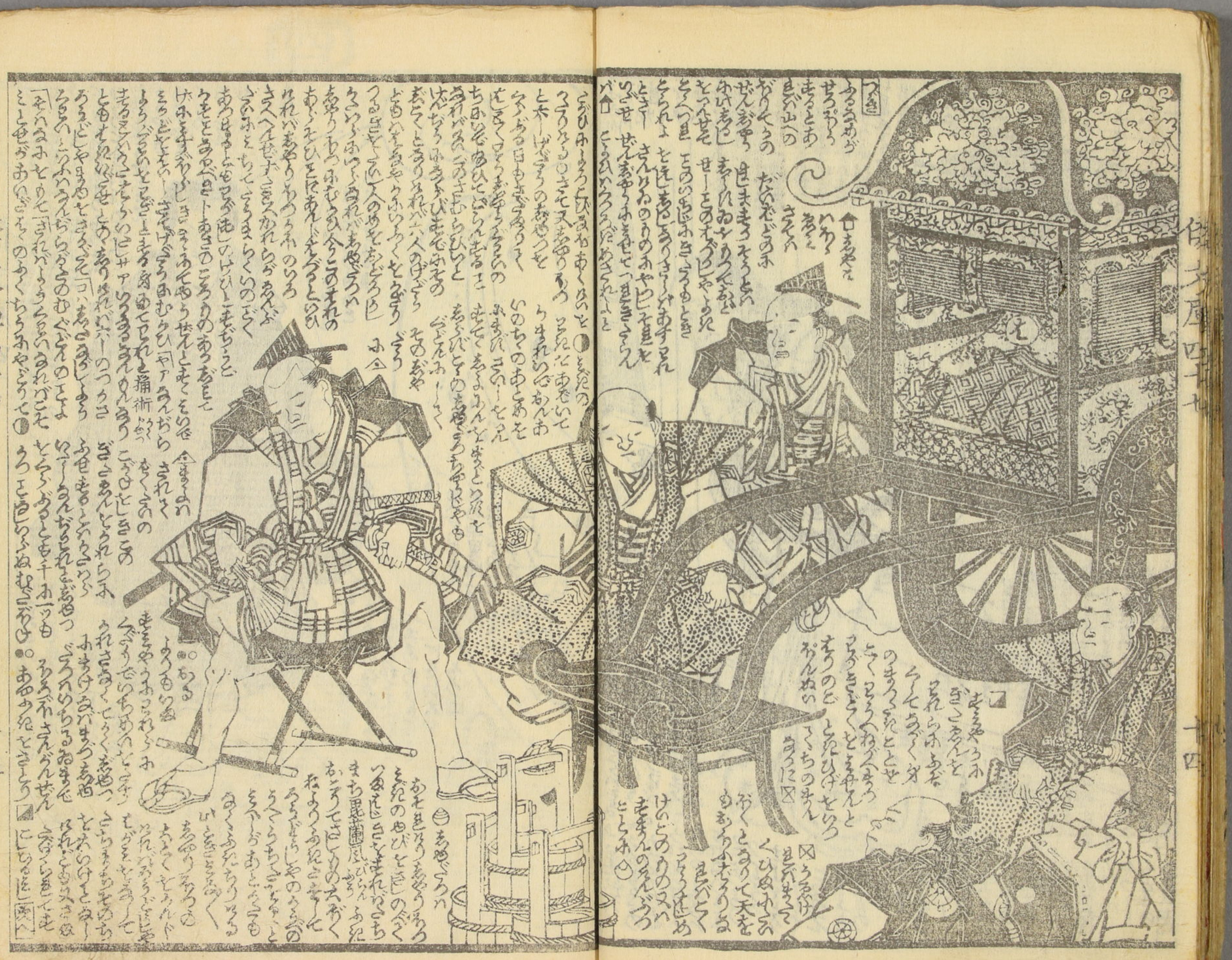
下之巻

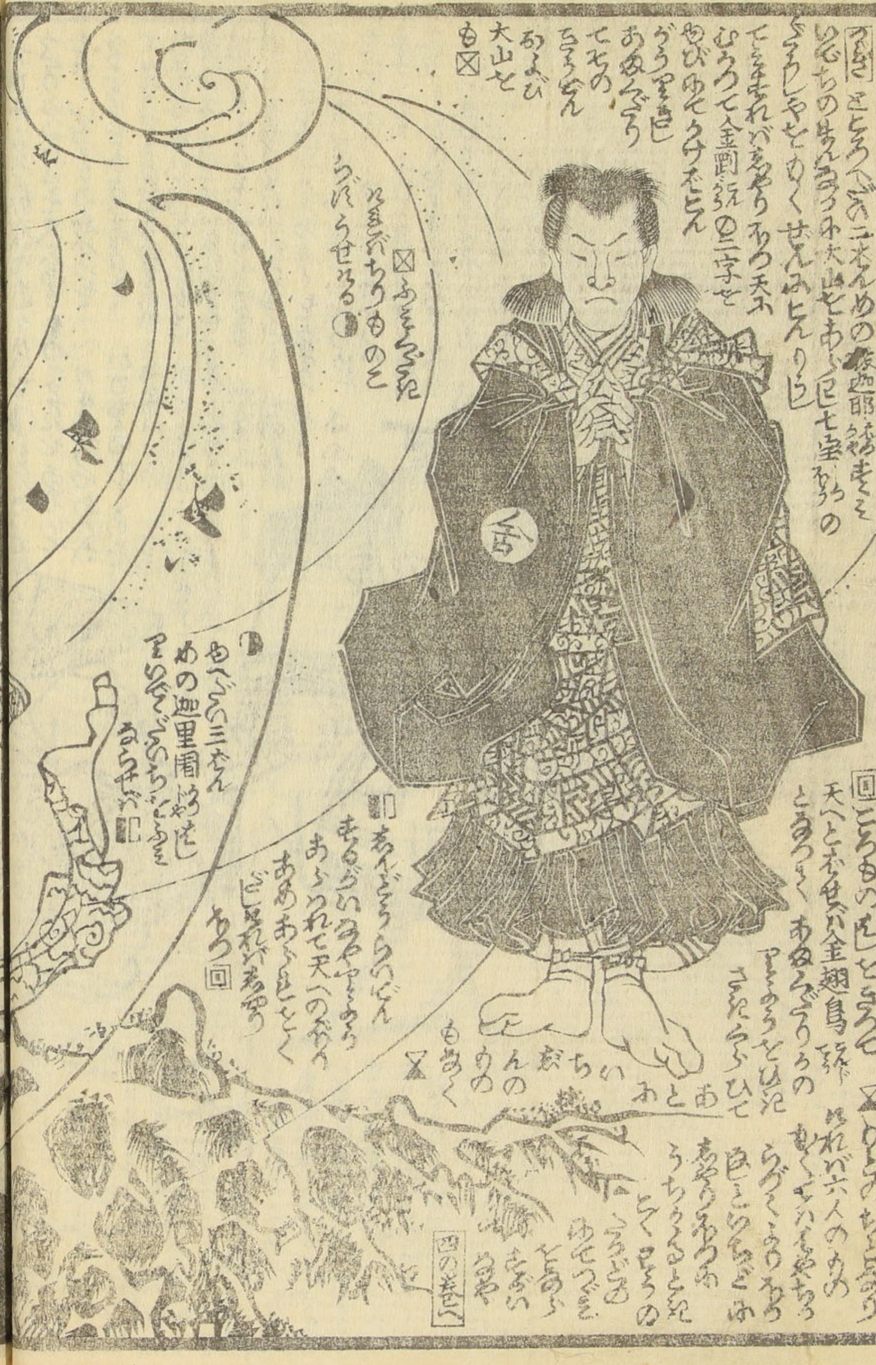
辛為初秋

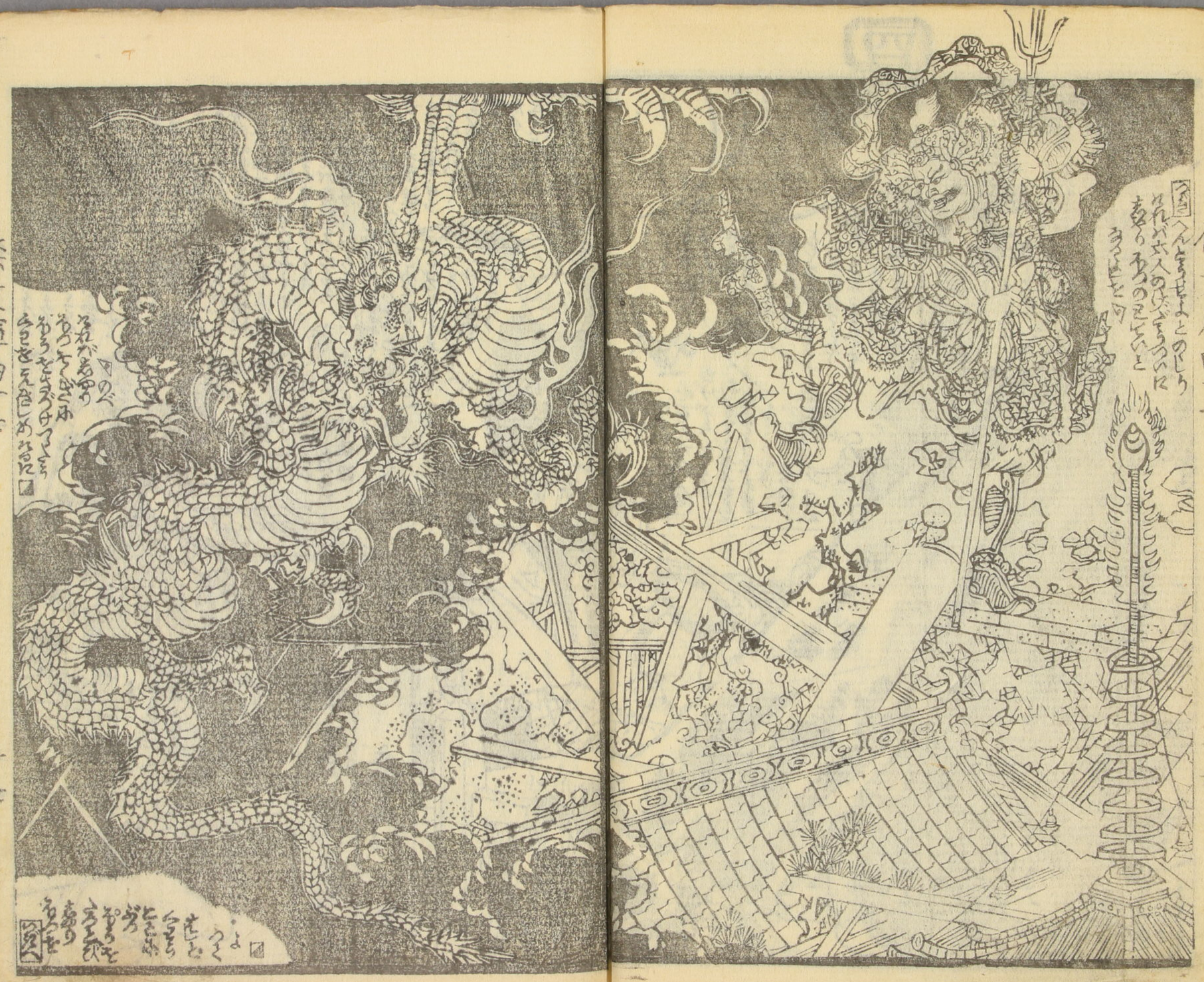
無賀仮
玉兎志

堂特

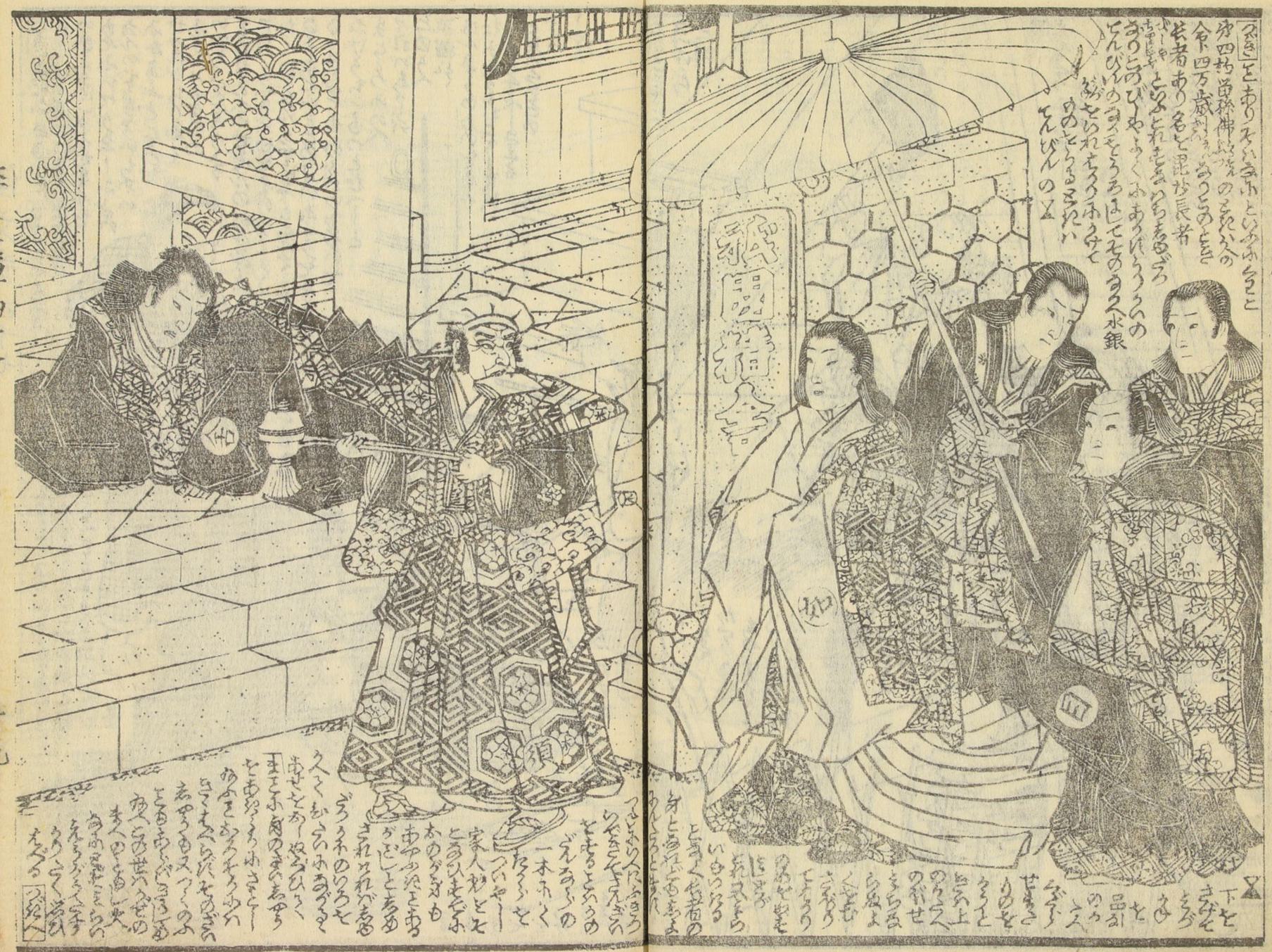


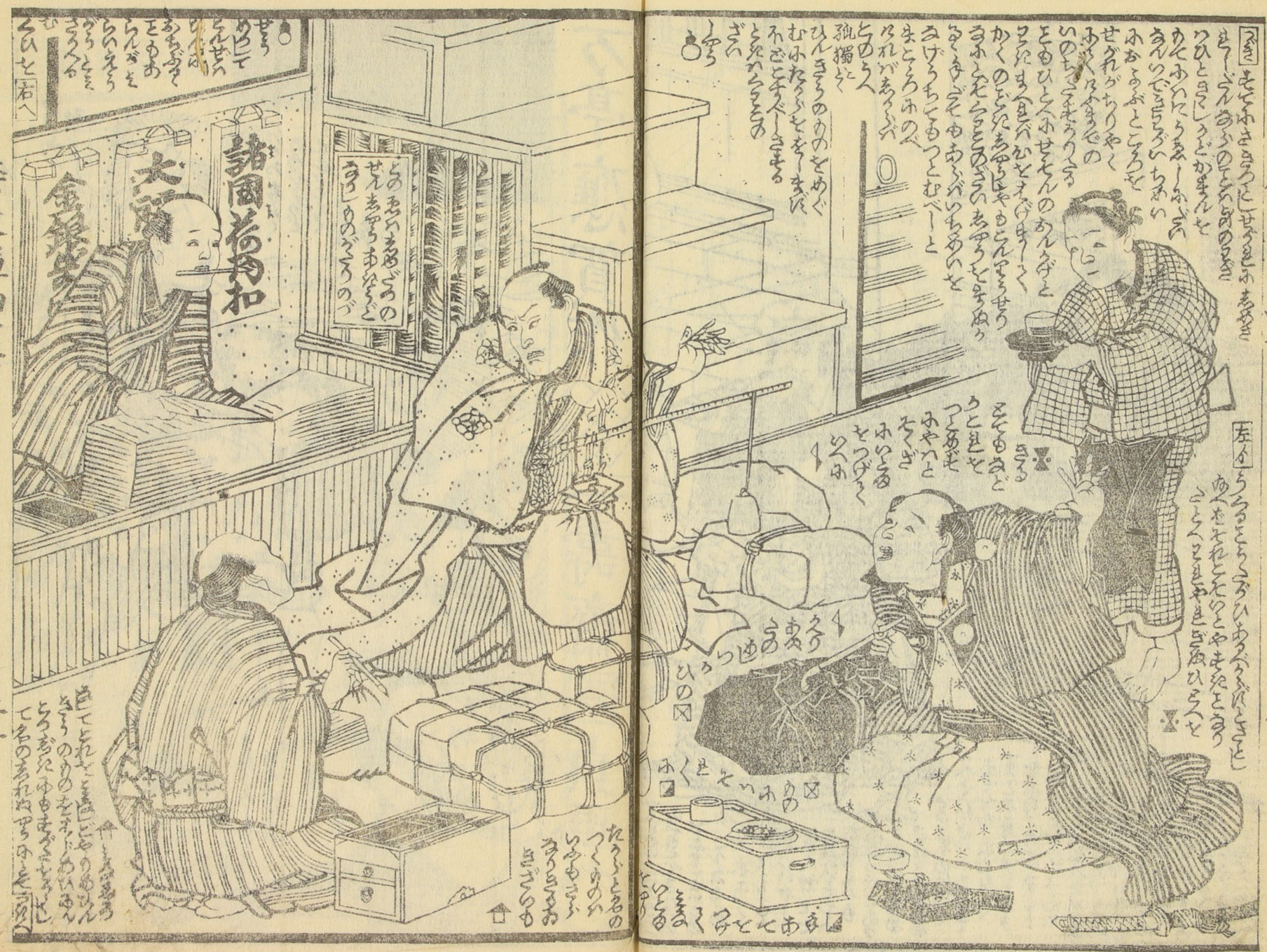





八月 へんきもよとのしろ
それが六人のげだうつのに
あるりあちのをたいと
きうとをとの
それがあるり
あちこちをぎけつとも
ちうをえをしめさるに

祇園精舎
奉行 舎利


傳授屋四十世
須


諸国若狭和
大江
金兵衛

傾女文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画
春の手遊　將棋双六　同作　歌川貞房画
男女振合　役替双六　極彩色摺　同作　一陽齋豊國画
武家奉公出世双六　同作　同画
奥奉公出世双六　同作　同画
子宝延命袋　紅摺全冊　同作　歌川芳玉画
重榮御江戸繪圖　奉書四枚半續
大寶御江戸圖　極上摺　奉書六枚半續

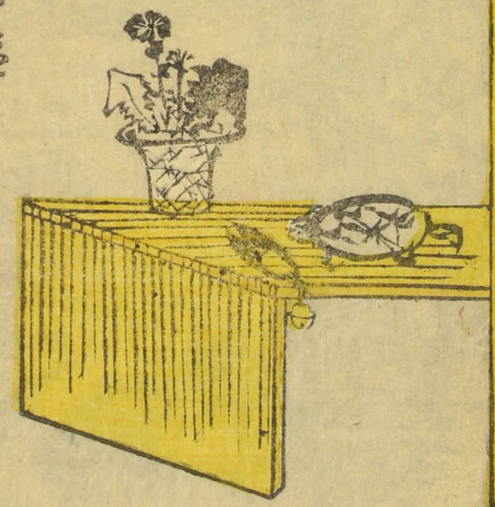
万亭應賀作
上
東上ノ加屋

倭文庫　第四　拾八篇上之巻

百ちさく
一寿亦面

孝周の居

綿雲堂嘉樹



釋迦八相倭文庫四拾八編序

此篇ハ世尊ハ御子善星比丘於佛作怨生身阿鼻地獄に墮ちて及び闍佉利舎利弗目蓮を俳謗して鬼瘡を生じて是ハ地獄ハおつることを誌又六羣比丘ハ性釈因縁聞てハ法を抑予が法子の真似しそ某比丘ハ比丘のとりて腹のなかのすぐむくしあごのら扶子定規にチョボクレくちのがるる序ハ扶襃てんぐさをいかいくと爾云

文久辛酉
孟秋農兒

万亭應賀誌

世尊

目蓮

○善星比丘

世尊の足跡ふ死せる蚯蚓をあきく

▲舍利弗目蓮を俳傍しく惡瘡を生じその遂ふ獄中に墮る

舍利弗

無量の人をして殘害の想を起さしむこれよりつゝに遂に生身阿鼻地獄ふあり

○提婆達多の伴黨瞿伽利不淨心をおこす

九加利

善星

せんえ
実い変のく
一万宿
○薩婆多論
第四ふ云
六君羊比丘とい
一ふ難途
二ふ跋難陀
三ふ
迦留陀夷
四ふ闡那
五ふ馬宿
六ふ滿宿
馬宿
おつるのんぎ
ちんとの
かるだい

善
九
提

如
舍

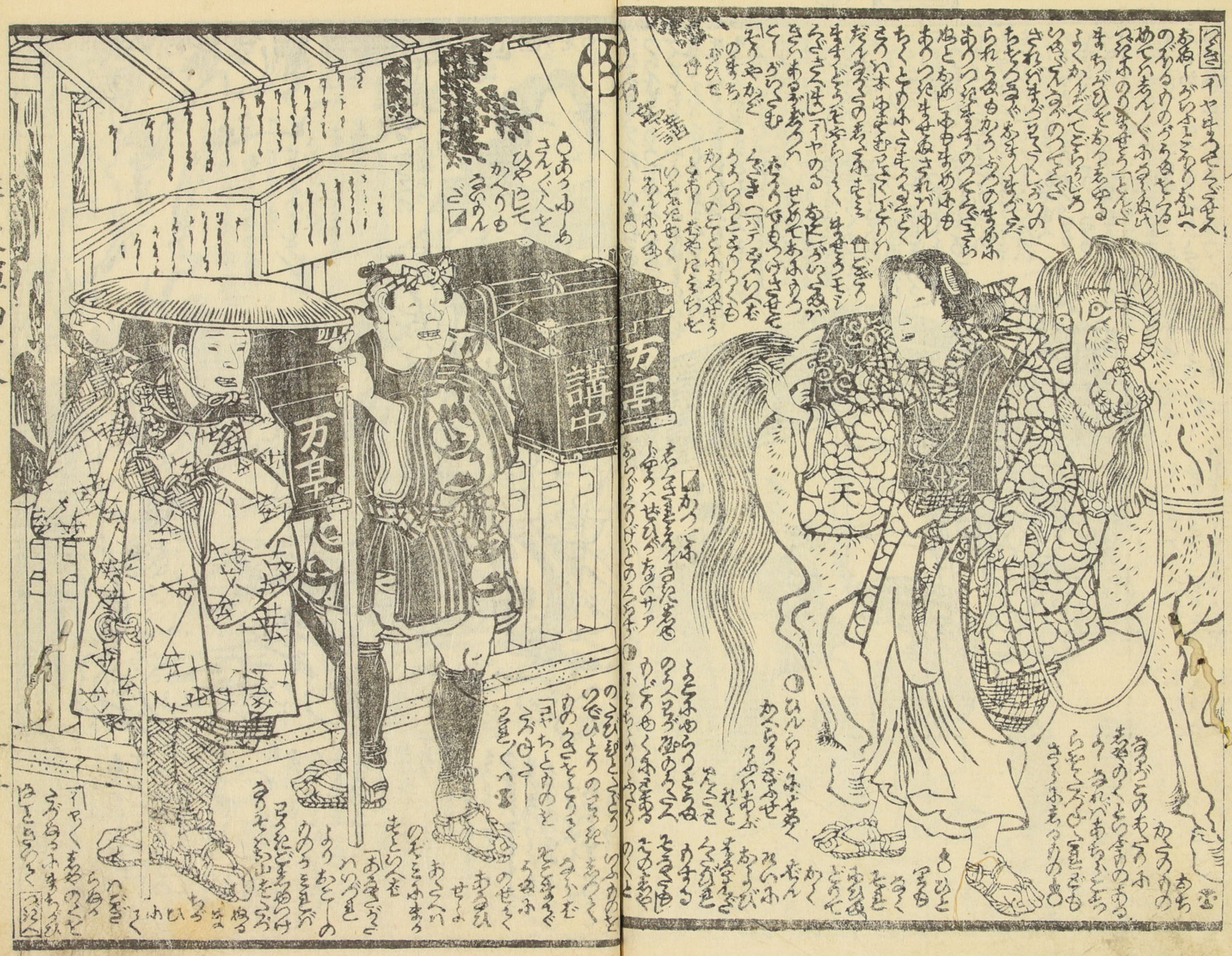
倭文庫四拾八編

歌川國貞画

外題画五國玉

やまぶき
婦人記
四十八編
下の巻
万亭作
国貞画
上重版
雪門堂

三
婦人軍四十八

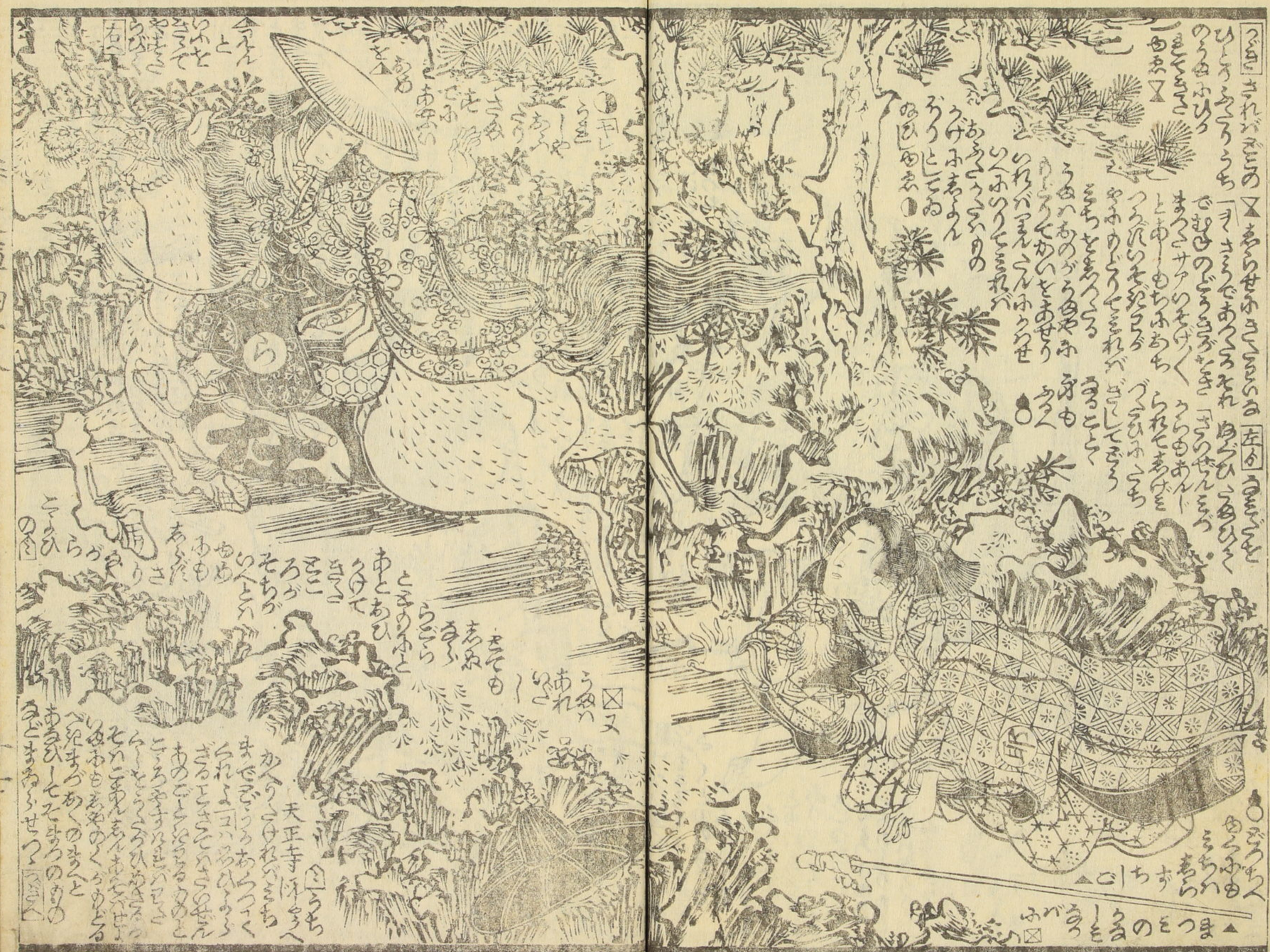

天
講中
万事

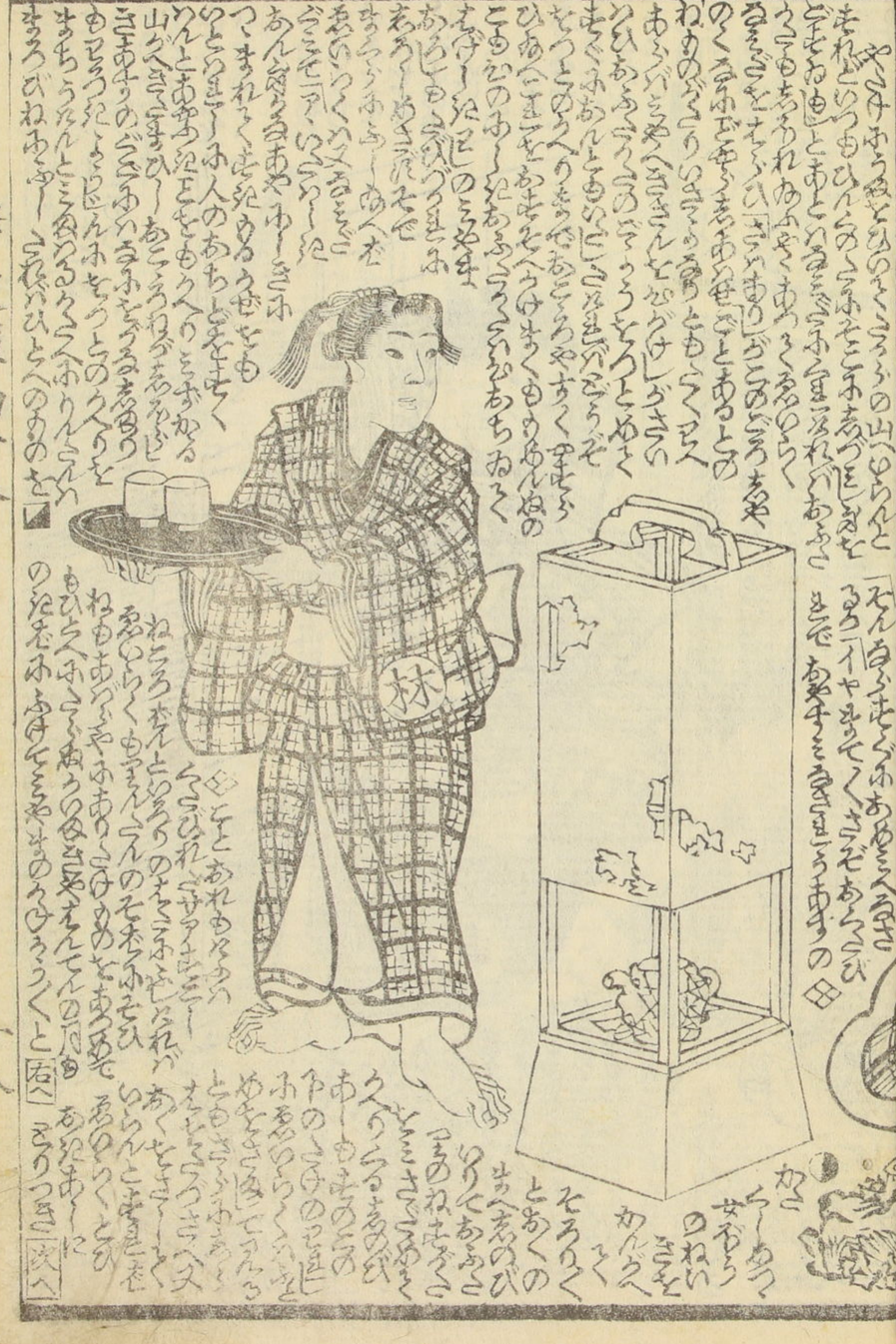
天
俵

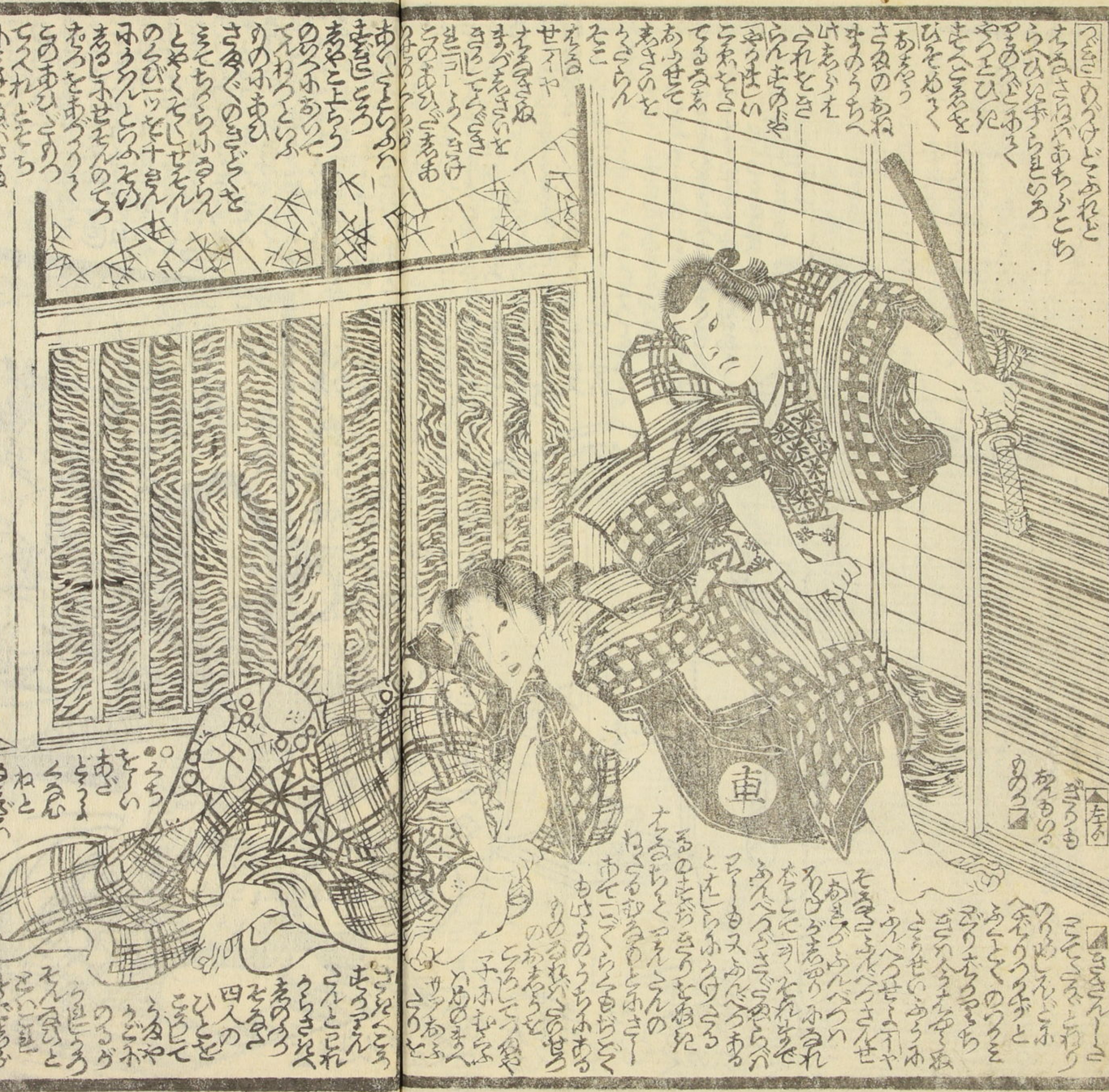
天
石
馬

三の巻より
とあとちり
の口

天







備書　交来

文久二年壬戌春新板目録

倭文庫　四十八編　四十九編　万亭應賀作
五十編　五十一編　一陽齋豊國画

重の井菱染別小紋　八編揃　為永春水作　同画

昔語小栗實説　二編　松亭金水作　三編　同画

花山吹百人女郎　初編　柳亭種彦作　二編　同画

浅草みやげ　五編揃十返舎一九作　同画

常磐津懐中本　初編二編　小中ゆて　三編四編　節分あり　極上ぶり

◇重　繪艸紙本類　人形町　上州屋重藏版

本朝宿年歌